

ありたいまち（案）

尼崎市の将来の「ありたいまち」の姿として、次の4つの姿を示し、その実現に向けた取組を進めることで、尼崎市が、住みつづけたい、住んでみたい、と思われる魅力的なまちになることをめざします。

「ありたいまち」の実現に向けた各施策における取組は、まちづくり実行計画において具体化していきます。

(1)人が育ち、互いに支えあうまち

学校教育や社会教育、家庭生活や地域での様々な活動などを通じて、未来を担う子どもや地域社会を担う人材が育ち、子育てや介護、防犯といったことから、災害などの緊急事態への備えまで、くらしの色々な場面で幅広い年代・立場の人が互いに支え合うことのできる、人と人とのつながりが豊かなまちでありたい。

(2)健康、安全・安心を実感できるまち

生涯にわたり社会に参画できるように、市民一人ひとりが健康であるとともに、安心して学び、働き、生活し続けられる安全な環境が、行政の責任と地域の支え合いによって実現しているまちでありたい。

(3)地域の資源をいかした活力あるまち

これまで培われてきた多様な歴史・文化資源、産業集積、地域の人材などの本市の個性を活かし、地域において産業、雇用、消費が生まれ、域外との交流が活発に行われるまち、そして、これらの魅力を発信することで、「あまがさきのよさ」が知られ、市民であることを誇りに思えるまちでありたい。

(4)次の世代に負担を残さず、よりよい明日をつないでいくまち

環境問題への取組が継続的に行われ、よりよい環境を次の世代に引き継いでいけるまち、そして、市民生活を支える行財政や、都市施設の維持・再編などの課題が、市民・事業者・行政で共有され、先送りせずに解決に取り組まれることで、次の世代によりよい状態を引き継いでいけるまちでありたい。